



2 区 | 深 谷 行政区

地理



現在の村の中心的な場所に立地している。福島と南相馬（原町）を結ぶ幹線道路の県道 12 号線が東西に貫いており、交通の便が良い。いいたてむらの道の駅までい館が目立つ。かつては県道 12 号線沿いに 100ha ほどの水田が広がっていた。村が水田を買い上げてまでい館や集合住宅、太陽光発電のパネルを設置した。県道 12 号線をはさんで南側の土地も村が借り上げ、振興公社が水田耕作や花栽培を行っている。

文化・生活

かつては農業が一般的だった。冬は農業が出来ないため、炭焼きや建築用材の伐採など、山仕事を行う人も多かった。高度成長期に入ると、出稼ぎが始まり、村にも製造業が少しずつ入ってくるようになった。

相馬農業高校飯館分校が戦後に誘致された。震災の影響で 5 年ほど前に生徒の募集が停止され、最近本校への統合が決まった。高校では日中国交正常化後の日中交流促進の流れの中で、中国からの研修生受け入れを行っていたときもある。中国から農業研修生が飯館を訪れ、村民の家にホームステイし分校に通学していた。

あいの沢近くの山頂にある葉山神社のお祭りが伝統的に行われている。ふもとに籠り堂があり、祭りはそこで行われた。無病息災などを祈り裸足で火の上を歩く火渡りを行ったり祝詞をあげたりしていた。稲作が大きな文



市澤秀耕 行政区長

農家の長男として生まれ、村役場に勤めた後、野菜と自家焙煎珈琲を提供する「極久里珈琲」を村内で開業する。事故後は福島市内で店を再開し、休日には飯舘村の畑を管理している。移住者も総会や草刈りに呼ぶなど、行政区長としても地域のまとまりを大切にしている。

化として存在していて、豊作や山の仕事の安全を祈るお祭りであった。

伝統芸能としては、他の多くの行政区同様田植え踊りがあげられる。旧正月の時期に踊り子が各家を回って踊り、厄払いを行う。深谷地区でも30～40年ほど前には若者が年配の方に教わって踊りを練習していたが、今ではやらなくなってしまった。農業後継者が減るなど社会が大きく変貌したためであろう。貨幣社会の浸透によって生活が忙しくなり、夜集まって練習するなどの余裕がなくなってきたために次第に継承が行われなくなった。

地区を4つの組に分けて組対抗運動会を実施していた。組ごとに練習や応援を行い、運動会が終了したら皆で酒を飲み、地区総出で盛り上がるイベントであった。しかし、平成になったころから次第に下火になっていったという。行政区対抗の運動会もあり、こちらは事故前まで実施していた。

馬頭観音(馬や牛を供養するための観音様)が集落内の3か所に存在し、観音様が位置する参道をきれいにし、神主さんにお祓いをしてもらうお祭りを春秋に実施していた。場産地であったことの名残りである。

震災後は餅つきや出店のイベントはなくなったが、葉山神社の祭祀は続いている。行政区に4人いる祭典委員が世話役となって神主さんと呼んで祝詞を挙げてもらい、参拝する。2022年には山頂までの道の掃除を行った。

〔共同作業〕

昔から水田の用排水路の管理などは共同で行っており、現在でも作業を続けている。そのつながりは冠婚葬祭などとともに地域の連携を形作っている。

飯舘村の75%を占める山林の管理を営林署と合同で行う部分林組合が存在する。植林や下刈りを共同で行っていたが、放射線量の問題や林業の衰退で作業を行うことが出来なくなり、現在は繋がりが薄れている。

コラム

【図図倉庫】

震災を機に閉店になったコメリの建物を活用して開発中の環境問題にアプローチする秘密基地、図図倉庫(ずっとそーこ)。矢野淳さんや元地域おこし協力隊の松本奈々さんが中心となり、コメリ時代のつくりから多くを自ら手作業でコツコツと改修を進めてきた。地域につながりをつくることもねらいとして2023年には本格的に開業し、シェアオフィスなどでの利用ができるようになった。飯舘村や震災のこと、放射線のことなどを伝えるツアー活動の拠点ともなっている。

店 事業所

道の駅の西側に住宅が4軒あり、その内の2軒が商店であり、雑貨屋だった。現在では、「いいたてむらの道の駅までい館」がおかれている。「村カフェ 753」、「図図倉庫」、ディーラー、その他農協の施設がおかれている。あいの沢には、村営の「宿泊体験館きこり」やキャンプ場もある。

人口

119人

最新（2020年）

1983年 410人

1998年 389人

2011年 317人



▲ ままでい館裏の公園(ふかや風の子広場)



▲ ままでい館前の県道12号線



▲ 民家園

▼ 一部に残る汚染土置き場



▲ 宿泊体験館きこり

▼ 県道12号線 後ろに村カフェ 753





▲ 毎年冬になるとまでい館裏手の「ふかや風の子広場」がライトアップされる。商工会の方の手作り。

▼ 享保年間に築造されたあいの沢。冬だからか「あいの浮橋」はつながっていない。

